

## 令和4年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価結果と対応措置の実施計画 (全学評価・FD委員会における点検・評価結果)

令和4年度の教育の内部質保証に関する自己点検・評価は、「教育の内部質保証に関する点検リスト」(下記(参考1)参照)に定める基準に基づき、教育課程単位で自己点検・評価を実施した。

自己点検・評価の結果、すべての基準を「満たしている」ことが確認され、自己点検・評価結果等を踏まえた改善課題及び対応措置の実施計画をとりまとめた。

(参考1) 教育課程と学習成果に関する点検項目(大学機関別認証評価の基準(領域6)を準用)

### ○6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であるか

6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定している

### ○6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であるか

6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示している

6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有している

### ○6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して体系的であり相応しい水準であるか

6-3-1 教育課程の編成が、体系性を有している

6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっている

6-3-3 他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めている

6-3-4 大学院課程(専門職学位課程を除く)においては、学位論文(特定の課題についての研究の成果を含む)の作成等に係る指導に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしている

### ○6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されているか

6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっている

6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっている(10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげている)

6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されている

6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当している

### ○6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われているか

6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われている

6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われている

6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施している

6-5-4 障がいのある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えている

### ○6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか

6-6-1 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定している

6-6-2 成績評価基準を学生に周知している

6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認している

6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けている

○6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業（修了）判定が実施されているか

- 6-7-1 大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定している
- 6-7-2 大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されている
- 6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること
- 6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施している

○6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られているか

- 6-8-1 標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則した状況にある
- 6-8-2 就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学の様子が、大学等の目的及び学位授与方針に則した状況にある
- 6-8-3 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている
- 6-8-4 卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている
- 6-8-5 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている

(参考2) 関係規則等 抜粋

神戸大学内部質保証指針（抜粋）

5 内部質保証の手順

(1)教育の分野について

①教育課程については、まず、各部局が教育課程点検・評価、組織点検・評価を行い、全学評価・FD委員会において各部局からの報告をとりまとめ、全学的な点検・評価を行い、大学教育推進委員会がその点検・評価が妥当なものであるかどうかの確認等を行う。また、評価委員会によるメタ評価を経て、学長を長とする評議会がその確認等が妥当なものであるかどうかの確認等を行う。評議会の確認等の結果、課題がある場合は、大学教育推進委員会に改善を命じる。また、改善方策の進捗状況に課題がある場合も同様とする。

教育の内部質保証に関する自己点検・評価実施要項(令和2年4月2日大学教育推進委員会決定)（抜粋）

3. 実施方法

- (1) 部局（各学部、各研究科及び大学教育推進機構教養教育院）は、教育課程ごとの点検・評価（教育課程点検・評価）及び部局ごとの点検・評価（組織点検・評価）を実施する。
- (2) 全学評価・FD委員会は、(1)の結果をとりまとめ、全学的な点検・評価を行う。
- (3) 大学教育推進委員会は、(2)の結果が妥当なものであるかどうかの確認等を行い、その結果を神戸大学評価委員会に報告する。
- (4) 自己点検・評価の結果に対し、学長を長とする国立大学法人神戸大学教育研究評議会から課題等について改善を命じられた場合、大学教育推進委員会は、関係委員会や部局に対して改善を求めるなど速やかに改善に取り組むとともに、その進捗状況を次回の自己点検・評価の際に点検する。
- (5) (1)(2)に定める自己点検・評価の実施に関する具体的な手順等は、全学評価・FD委員会が別に定める。

教育課程の自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画及び進捗状況一覧

					令和4年度			
					令和4年12月（教育研究評議会）		令和5年5月（教育研究評議会）	
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項	年月	計画の進捗状況	①対応計画（改善方策）	計画の進捗状況	②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定（令和5年2月時点）
1	大学教育課程推進委員会	7. 法学研究科	・法学研究科実務法律専攻（法科大学院）について、カリキュラム改正や法科大学院認証評価基準の改訂への対応 ・学位授与方針、教育課程方針 ・カリキュラムマップ ・教育上主要と認める授業科目 ・法科大学院運営委員会および専攻会議において、各授業科目の成績評価や単位認定について確認をしていることを、議事録に記載すること ・成績に対する異議申立て制度	令和4年12月	対応中	①年度内に改訂し、または実施する。	対応中	②・学位授与方針、教育課程方針、カリキュラムマップを改定した（令和4年12月7日実務法律専攻会議）。 ・「法学研究科専門職学位課程学生の成績評価不服申立に関する内規」を改定した（令和5年1月5日実務法律専攻会議）。 ・「法学研究科専門職学位課程学生の成績評価基準に関する細則」を改定し、成績評価につき所定の割合が守られていることを実務法律専攻長が専攻会議において報告することなどを定めた（令和5年2月1日実務法律専攻会議）。 ③教育上主要と認める授業科目を定める（年度内に行う予定）
2	大学教育課程推進委員会	11. 経営学部	学位授与方針及び教育課程方針に合う形で教育課程の編成及び授業科目の内容等をさらに充実するために、経営学におけるデータサイエンス（データを用いた統計的分析）に関する教育を充実させる。	令和4年12月	検討中	①新たな教育プログラムを設計し、2023年度から実施する予定である。	対応中	②カリキュラム（授業体系）や修了要件等、プログラムの設計は終え、授業計画等においてプログラム実施のための準備を行っている。 ③プログラムは2023年度新入生を主たる対象として開始するが、カリキュラム上プログラム科目は学部2年次以上に配当することとなったため、2023年度は同年度2年生以上を対象に一部科目を試行的に開講し、翌年度からの本格実施の準備を行う。
3	大学教育課程推進委員会	14. 理学部	一部の科目でシラバスの記載内容が不十分であったため、記載例に倣って令和5年度のシラバスを作成するよう徹底する。	令和4年12月	検討中	①改善方策について教務委員会で検討・実施する。	対応中	②R4年12月16日開催の理学部教授会において、シラバスの記載方法やハイブリッド型授業関係の情報をまとめて説明した。R5年度のシラバスについて、各学科の教務委員会委員が内容を確認することとした。 ③R5年2月～3月頃に、各学科の教務委員会委員がR5年度シラバスの内容を確認する。
4	大学教育課程推進委員会	15. 理学研究科	・シラバスの記載内容 ・一部の科目でシラバスの記載内容が不十分であったため、記載例に倣って令和5年度のシラバスを作成するよう徹底する。	令和4年12月	検討中	①改善方策について教務委員会で検討・実施する。	対応中	②R4年12月16日開催の理学部教授会において、シラバスの記載方法やハイブリッド型授業関係の情報をまとめて説明した。R5年度のシラバスについて、各学科の教務委員会委員が内容を確認することとした。 ③R5年2月～3月頃に、各学科の教務委員会委員がR5年度シラバスの内容を確認する。
5	大学教育課程推進委員会	16. 医学部	・医学部医学科 ・臨床実習カリキュラムの改善 ・現在、日本で医学部生が参加する臨床実習は、従前の見学型実習から診療参加型実習へ内容が変化している。また、知識以外の技能・態度・習慣に係る学修成果を測る OSCE 試験が次年度から公的化される。これらを踏まえ、本学の臨床実習の問題点を洗い出し、改善を図る。	令和4年12月	対応中	①令和3年8月より臨床実習改革ワーキングを発足させ、臨床教育に関わる教員をメンバーに、従前のBSL、関連病院実習、個別計画実習について、改善の方向性や具体的なカリキュラム内容、期間、教員FD等の細部にわたり協議を重ねた。令和3年12月の医学科会議において、新たに臨床実習1・2・3として医学部内関係者の了承を得、現5年生（新実習策定時4年生）より新たな実習カリキュラムを適用することとした。現5年生を中心に、各実習が終了するごとにアンケートを実施し、教育研究・IR委員会で結果を分析し、新たに提示された問題点等に対応し、改善を図る。	対応中	②新カリキュラムが適用された現5年生は、11/25に臨床実習1と臨床実習2前半を修了したことから、各学生あてアンケートを実施し、現在とりまとめを行っている。 ③11/28から開始された臨床実習2については2/3に終了の予定であり、同様に学生アンケートを実施するとともに、教員あてには後期の授業が終了したのちに授業のふりかえりアンケートを実施することとしている。 これらのアンケート結果を踏まえ、令和5年度第1回目の教育研究・IR委員会（6月ごろ）にて旧課程と対比した分析評価を行い、令和6年度以降のカリキュラムへ反映させることを予定している。

					令和4年度			
					令和4年12月（教育研究評議会）		令和5年5月（教育研究評議会）	
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項	年月	計画の進捗状況	①対応計画（改善方策）	計画の進捗状況	②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定 （令和5年2月時点）
6	大学教育課程推進委員会	19. 工学部	分析項目6-8-3 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること 内容：令和3年度に実施した「卒業時アンケート」において、複数の設問に対し、平均80.5%を超える学生が大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が「得られた、どちらかといえば得られた」と回答していることから基準を満たしていると判断できる。ただし、「外国語の運用・表現能力」については「得られた、どちらかといえば得られた」が66.5%（「どちらともいえない」が22.2%）であり、他の設問と比較すると大幅に低いため、今後、検討を行う必要がある。	令和4年12月	検討中	①「卒業時アンケート」は学生の視点における結果であり、学部や学科単位において、著しい語学力の低下は認められない。今後、現状を慎重に分析していく。一方では、コロナ禍において海外への渡航や留学生との交流など、外国語に触れる機会が著しく減ったことは間違い無い。毎年実施しているグローバルチャレンジプログラム海外実習の中止も一因と考えられる。そこで、教授会や教室会議等において、各教員に対し、研究室に所属する学生に留学、外書講読など、外国語に触れる機会を積極的に増やすことを推進するよう要請する。	対応済	②運営会議において、各教員に対し、研究室に所属する学生に、留学や国際学会への参加、外書講読など、外国語に触れる機会を積極的に増やすことを推進するよう要請した。 ③2023年3月にはグローバルチャレンジプログラム海外実習の実施を予定している。 2023年5月からジョージア工科大学との共同プログラム（JSPED）の授業科目の開講を予定している。
7	大学教育課程推進委員会	20. 工学研究科	・分析項目6-8-3 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること ・内容：令和3年度に実施した「修了時アンケート」において、複数の設問に対し、平均87.0%を超える学生が大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が「得られた、どちらかといえば得られた」と回答していることから基準を満たしていると判断できる。ただし、「外国語の運用・表現能力」については「得られた、どちらかといえば得られた」が68.1%（「どちらともいえない」が21.1%）であり、他の設問と比較すると大幅に低いため、今後、検討を行う必要がある。	令和4年12月	検討中	①「修了時アンケート」は学生の視点における結果であり、研究科や専攻単位において、著しい語学力の低下は認められない。今後、現状を慎重に分析していく。一方では、コロナ禍において海外への渡航や留学生との交流など、外国語に触れる機会が著しく減ったことは間違い無い。そこで、教授会や教室会議等において、各教員に対し、研究室に所属する学生に留学、国際学会への参加、外書講読など、外国語に触れる機会を積極的に増やすことを推進するよう要請する。	対応済	②運営会議において、各教員に対し、研究室に所属する学生に、留学や国際学会への参加、外書講読など、外国語に触れる機会を積極的に増やすことを推進するよう要請した。 ③2023年5月からジョージア工科大学との共同プログラム（JSPED）の授業科目の開講を予定している。
8	大学教育課程推進委員会	21. システム情報学研究科	・分析項目6-8-3 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること ・内容：令和3年度に実施した「修了時アンケート」において、複数の設問に対し、平均87.0%を超える学生が大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が「得られた、どちらかといえば得られた」と回答していることから基準を満たしていると判断できる。ただし、「外国語の運用・表現能力」については「得られた、どちらかといえば得られた」が68.1%（「どちらともいえない」が21.1%）であり、他の設問と比較すると大幅に低いため、今後、検討を行う必要がある。	令和4年12月	検討中	①「修了時アンケート」は学生の視点における結果であり、研究科や専攻単位において、著しい語学力の低下は認められない。今後、現状を慎重に分析していく。一方では、コロナ禍において海外への渡航や留学生との交流など、外国語に触れる機会が著しく減ったことは間違い無い。そこで、教授会や教室会議等において、各教員に対し、研究室に所属する学生に留学、国際学会への参加、外書講読など、外国語に触れる機会を積極的に増やすことを推進するよう要請する。	対応済	②教授会において、各教員に対し、研究室に所属する学生に、留学や国際学会への参加、外書講読など、外国語に触れる機会を積極的に増やすことを推進するよう要請した。 ③なし

					令和4年度		
					令和4年12月（教育研究評議会）		令和5年5月（教育研究評議会）
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項	年月	計画の進捗状況	①対応計画（改善方策）	計画の進捗状況 ②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定（令和5年2月時点）
9	大学教育課程推進委員会	22. 農学部	6-8-3「卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている」に対する「外国語の運用・表現能力」 内容：「外国語の運用・表現能力」は「十分身についた」「ある程度身についた」の合計がR1-R3間で66.2%、69.4%、69.6%と着実に増加傾向があることは、英語教育に力を投じている農学研究科としては満足できる傾向にある。この値をもう一段階上（80%）に持っていくには、何らかの施策が必要であると思われる。	令和4年12月	対応中	①外国語教育に関して農学部は、UPLB 留学英語教育やネブラスカ大との留学経験や講師派遣に取り組んでおり、これらが軌道に乗れば能力・満足度ともに水準が向上すると考えている。一方R2年度以降、コロナ禍の影響でこれらの留学や講師招聘が滞っていることが不安材料であったが、R4よりネブラスカ大留学は再開された。留学後のアンケート調査でも好印象であった。一方、課題もあるので次年度以降反映させていきたい。また、UPLBとのオンライン留学・英語実習を実施し、学生から高い評価を得たことは今後の方針も含めて価値があった。	対応中 ②以下を今年度実施した ・ English for Agricultural Science（学部3・4年，2Q）2022/8/8-8/10 ★参加人数：14名 ・ UNL農学英語研修，2022/9/18～10/1 ★参加人数：14名 ③以下を年度内に実施予定。来年度も同様のプログラムを実施予定であり、日程はR4と同様であると考えられるが、国際状況等を踏まえながら検討する。 ・ UPLB農学英語コース（GCP）（★参加人数：17名参加予定） 【うち派遣期間（海外）】2023/2/26～3/18 【うち派遣期間（国内・オンライン）】2023/1/16～2/25，2023/3/19～3/23 加えて、ジョージア工科大学(GT)と連携した以下の新規科目を開講予定である。 ・ Energy, Environment and Society（学部3・4年，2Q）
10	大学教育課程推進委員会	23. 農学研究科	6-8-3「卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている」に対する「外国語の運用・表現能力」 内容：全体的に高い学修・満足度を維持できている一方、R3は「十分身についた」「ある程度身についた」が47.1%と減少した。これは2年間のコロナ禍が影響しており、部局が力を入れている海外渡航・海外講師招聘が実施出来なかったことが要因であると考えられた。早期にでもこれらの講義を実施したいと考えている。	令和4年12月	対応中	①英語教育の能力や満足度は、留学体験や海外学会での発表経験が大きく影響すると予測できた。コロナ禍における行動指針の緩和に伴い、海外での学会発表は増加しつつある。また、R3年度末にUPLB 留学英語教育をオンラインで実施、ネブラスカ大留学をR4に再開した。両方ともアンケート調査から好印象の評価を得ている。今後も講義・留学等はコロナ禍以前の状態に戻す予定である。	対応中 ②以下を今年度実施した ・ UPLB英語プレゼン技術講義：2022/5～8月 Intermediate Techniques in English Speech Delivery(M)★参加人数：23名 Comprehensive Techniques in English Speech Delivery(D)★参加人数：5名 ・ UNL農学英語研修，2022/9/18～10/1 ★参加人数：6名 ③来年度も同様のプログラムを実施予定であり、日程はR4と同様であると考えられるが、国際状況等を踏まえながら検討する。加えて、ジョージア工科大学(GT)と連携した以下の新規科目を開講予定である。 ・ Advanced Energy, Environment and Society（修士，2Q）
11	大学教育課程推進委員会	海洋政策科学部	○分析項目 6-3-2：海洋政策科学部（令和3年4月設置）における授業実施状況の把握及び問題点の改善内容 海洋政策科学部は設置から2年目となり、今年度より新規専門科目が順次開講されている。新・旧学部のカリキュラムが同時進行して非常に複雑な状況となっており、予期せぬ問題点や今後検討が必要な点がいくつか発生しているため、現在、それらを一つ一つ丁寧に把握し、改善を行っている状況である。	令和4年12月	対応中	①教学委員会、教務学生グループ、各領域教員の中で現状の問題点を共有し、改善できる点は即座に対応し、更に新規専門科目が増える3年目の状況を見越して、混乱が生じないように来年度の授業計画を慎重に検討している。	対応済 ②第4クォーターも終わり、今年度の教学上の問題についての対応は完了した。来年度の授業計画については、海技教育機構の練習船による船舶実習時期がイレギュラーに変更されたことに伴うカリキュラム上の問題点が新たにいくつか見つかったため、時間割の修正等を行った ③来年度の授業計画について、今年度中に新たな問題が見つければ、即対応する予定である。
12	大学教育課程推進委員会	25. 海事科学研究科	○分析項目 6-1, 6-2, 6-3：令和7年4月に予定されている大学院改組に向けた現研究科の教育活動の総括と、それに基づく新研究科の方針検討。 内容：令和7年4月の大学院改組に向けて、部局内で組織された大学院改組WGを中心に、現研究科における従来の教育活動の総括と、それに基づく新研究科の方針の策定及びカリキュラムの検討を行っている。	令和4年12月	対応中	①現研究科の総括に基づき、新しい学位授与方針及び教育課程方針を策定すると共に、同方針に相応しい水準にある体系的な教育課程の編成及び授業科目の内容等を計画していく予定である。	対応中 ②大学院改組WGにおいて、現研究科の教育研究の総括に基づき、新しい大学院の組織（研究科、専攻、コース、教育研究分野など）、ポリシー関係（AP、DP、CP）、カリキュラム（開講科目、英語での実施科目、開講時期、担当教員、修了要件など）が検討され、原案がほぼまとまった状況にある。 ③2月中旬：大学院改組WGにおいて現在検討中の原案を研究科長に提出。 3月19日：2022年度最後の教授会において、同案を審議。 来年度4月（2年前告知のタイミング）：2025年度大学院改組について骨子を公表。

					令和4年度			
					令和4年12月（教育研究評議会）		令和5年5月（教育研究評議会）	
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項	年月	計画の進捗状況	①対応計画（改善方策）	計画の進捗状況	②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定 （令和5年2月時点）
13	大学教育課程推進委員会	26. 国際協力研究科	「研究指導計画書」に基づく学位論文の指導体制の実施状況及び効果の確認内容 先回認証評価で指摘され令和4年度から導入した研究指導計画書に基づく学位論文の指導体制が効果的に運用されているかを確認し、更なる問題点などが無いのか検討する。	令和4年12月	対応中	①BEEF+入力制度の構築が技術的に確認でき次第、本研究科「申し合わせ」5. に基づき教員による BEEF 入力・アップロード確認を教務係が行い、その結果を合同教務委員会で審議し、教授会に報告。更に進んで、修了時アンケートに学生にこの制度が役に立ったか聴取する項目を設けるとか、社会人院生や国際公務員志望者などにつき標準修了年限での修了できない理由（休学期間の意味づけなど）つき、評価FD委員会で引き続き検討を行う。	対応済	②認証評価分析項目6-3-4に対応すべく、「研究指導計画書」に基づく学位論文の指導体制の実施につき、2022年11月から使用開始となる BEEF+ Ventureを活用する予定であったが、稼働遅れにより主に紙ベース/メールベースによる代替方法により実施した。その結果につき、2023年1月合同教務委員会および2月教授会で確認した。 ③今後の技術的対応策、活用方法、改善策等につき、R5年度中に検討を開始する。
14	大学教育課程推進委員会	26. 国際協力研究科	個別指導が中心となる単位科目についても成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることの確認 内容：個人指導等が中心となる単位科目を中心に、成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて組織的に確認する。	令和4年12月	対応中	①昨年度より実施している成績評価関係のシラバス記載振りの確認を、教務係作成の資料に基づき合同教務委員会が行い、教授会に報告する。	対応済	②認証評価分析項目6-4-3、6-6-2、6-6-3に対応すべく、成績評価関係のシラバスの記載内容の確認を合同教務委員会が行った後、教授会においてその内容を報告した。また、各授業科目の成績評価や単位認定について、適切な運用がなされているかを教授会において議論の上、確認した。 ③R5年度中に、引き続き、成績評価関係のシラバス記載内容、及び成績評価、単位認定の適正性を、教授会等を通じて組織的に確認する。
15	大学教育課程推進委員会	26. 国際協力研究科	継続的に修了生から意見聴取する、より効率的な仕組みを構築する。 内容：修了後、一定年限を経過した修了生について意見聴取できる資料を用意するための仕組みを構築する。	令和4年12月	対応中	①修了生に修了後も継続的にアンケートを行うことができる「仕組み」（既に構築している留学生向け「GSICS メールニュース制度」を日本人修了生にも拡大するなど）につき今年度中に検討し、教授会に諮り、年度末ないし来年度から実施できるように準備を整える。	対応済	②認証評価分析項目6-8-4に対応すべく、継続的に修了生から意見聴取するより効率的な仕組みとして、2023年1月教授会で、「修了生メールニュース制度の構築について」を決定し、令和5年3月以降修了生及び以前の修了生についても、メールベースで意見聴取できる仕組みが構築できた（10月入学の留学生については既に仕組み確立済み）。 ③令和5年3月修了直後にメールニュース第一号を配信しメール受信状況を確認する。R5年度中に、認証評価分析項目6-8-4で求められている「大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること」の修了生からのアンケート調査ができるよう準備を進める。

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況**  
(改善・向上が必要とされた事項)

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にしてください。)</p>	<p>■ 大学教育推進委員会 □ 施設マネジメント委員会 □ 情報委員会 □ 附属図書館運営委員会 □ 学生委員協議会 □ 留学生委員会 □ 入試委員会</p>	
<p>年月</p>	<p>令和4年12月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項 ・法学研究科実務法律専攻（法科大学院）について、カリキュラム改正や法科大学院認証評価基準の改訂への対応</p>		
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学位授与方針、教育課程方針</li> <li>・カリキュラムマップ</li> <li>・教育上主要と認める授業科目</li> <li>・法科大学院運営委員会および専攻会議において、各授業科目の成績評価や単位認定について確認をしていることを、議事録に記載すること</li> <li>・成績に対する異議申立て制度</li> </ul>	
<p>根拠</p>	<p>令和4年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>法学研究科</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>年度内に改訂し、または実施する。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。</p> <p>□ 検討中 ■ 対応中 (令和4年12月は「対応中」) □ 対応済 □ その他 ( )</p>	
<p>前回確認時 (R4.12.15 教育研究評議会) からの進捗状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学位授与方針、教育課程方針、カリキュラムマップを改定した（令和4年12月7日実務法律専攻会議）。</li> <li>・「法学研究科専門職学位課程学生の成績評価不服申立に関する内規」を改定した（令和5年1月5日実務法律専攻会議）。</li> <li>・「法学研究科専門職学位課程学生の成績評価基準に関する細則」を改定し、成績評価につき所定の割合が守られていることを実務法律専攻長が専攻会議において報告することなどを定めた（令和5年2月1日実務法律専攻会議）。</li> </ul>	
<p>今後の予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育上主要と認める授業科目を定める（年度内に行う予定）。</li> </ul>	

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にして下さい。)</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 大学教育推進委員会  <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会  <input type="checkbox"/> 情報委員会  <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会  <input type="checkbox"/> 学生委員協議会  <input type="checkbox"/> 留学生委員会  <input type="checkbox"/> 入試委員会         </p>	/
<p>年月</p>	<p>令和 4 年 12 月</p>	/
<p>② 改善・向上が必要とされた事項</p> <p>基準 6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること</p> <p>基準 6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること</p>		
<p>内容</p>	<p>学位授与方針及び教育課程方針に合う形で教育課程の編成及び授業科目の内容等をさらに充実するために、経営学におけるデータサイエンス（データを用いた統計的分析）に関する教育を充実させる。</p>	
<p>根拠</p>	<p>経営学部 FD 委員会・教授会資料</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>経営学部</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>新たな教育プログラムを設計し、2023 年度から実施する予定である。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。</p> <p> <input type="checkbox"/> 検討中  <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 (令和 4 年 12 月は「検討中」)  <input type="checkbox"/> 対応済  <input type="checkbox"/> その他 ( )         </p>	
<p>前回確認時 (R4. 12. 15 教育研究評議会) からの進捗状況</p>	<p>カリキュラム（授業体系）や修了要件等、プログラムの設計は終え、授業計画等においてプログラム実施のための準備を行っている。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>プログラムは 2023 年度新入生を主たる対象として開始するが、カリキュラム上プログラム科目は学部 2 年次以上に配当することとなったため、2023 年度は同年度 2 年生以上を対象に一部科目を試行的に開講し、翌年度からの本格実施の準備を行う。</p> <p>※いつまでに、実行するかも含めて記載ください。</p>	



**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にしてください。)</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 大学教育推進委員会  <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会  <input type="checkbox"/> 情報委員会  <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会  <input type="checkbox"/> 学生委員協議会  <input type="checkbox"/> 留学生委員会  <input type="checkbox"/> 入試委員会         </p>	
<p>年月</p>	<p>令和4年12月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項 シラバスの記載内容</p>		
<p>内容</p>	<p>一部の科目でシラバスの記載内容が不十分であったため、記載例に倣って令和5年度のシラバスを作成するよう徹底する。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和4年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>理学部</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>改善方策について教務委員会で検討・実施する。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。</p> <p> <input type="checkbox"/> 検討中  <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 (令和4年12月は「検討中」)  <input type="checkbox"/> 対応済  <input type="checkbox"/> その他 ( )         </p>	
<p>前回確認時 (R4.12.15教育研究評議会)からの進捗状況</p>	<p>R4年12月16日開催の理学部教授会において、シラバスの記載方法やハイブリッド型授業関係の情報をまとめて説明した。R5年度のシラバスについて、各学科の教務委員会委員が内容を確認することとした。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>R5年2月～3月頃に、各学科の教務委員会委員がR5年度シラバスの内容を確認する。</p>	

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にしてください。)</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 大学教育推進委員会  <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会  <input type="checkbox"/> 情報委員会  <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会  <input type="checkbox"/> 学生委員協議会  <input type="checkbox"/> 留学生委員会  <input type="checkbox"/> 入試委員会         </p>	
<p>年月</p>	<p>令和4年12月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項 シラバスの記載内容</p>		
<p>内容</p>	<p>一部の科目でシラバスの記載内容が不十分であったため、記載例に倣って令和5年度のシラバスを作成するよう徹底する。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和4年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>理学研究科</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>改善方策について教務委員会で検討・実施する。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>           ※現時点での状況を記載ください。  <input type="checkbox"/> 検討中  <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 (令和4年12月は「検討中」)  <input type="checkbox"/> 対応済  <input type="checkbox"/> その他 ( )         </p>	
<p>前回確認時 (R4.12.15教育研究評議会)からの進捗状況</p>	<p>R4年12月16日開催の理学研究科教授会において、シラバスの記載方法やハイブリッド型授業関係の情報をまとめて説明した。R5年度のシラバスについて、各専攻の教務委員会委員が内容を確認することとした。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>R5年2月～3月頃に、各専攻の教務委員会委員がR5年度シラバスの内容を確認する。</p>	

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況**  
( 改善・向上が必要とされた事項 )

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成下さい。

<b>① 担当委員会</b> (担当委員会を■にして下さい。)	<input checked="" type="checkbox"/> 大学教育推進委員会 <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会 <input type="checkbox"/> 情報委員会 <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会 <input type="checkbox"/> 学生委員協議会 <input type="checkbox"/> 留学生委員会 <input type="checkbox"/> 入試委員会	
年月	令和 4 年 12 月	
<b>② 改善・向上が必要とされた事項</b> 臨床実習カリキュラムの改善		
内容	現在、日本で医学部生が参加する臨床実習は、従前の見学型実習から診療参加型実習へ内容が変化している。また、知識以外の技能・態度・習慣に係る学修成果を測る OSCE 試験が次年度から公的化される。これらを踏まえ、本学の臨床実習の問題点を洗い出し、改善を図る。	
根拠	令和 3 年 7 月 21 日医学科会議	
計画の実施主体	医学部医学科	
対応計画 (改善方策)	令和 3 年 8 月より臨床実習改革ワーキングを発足させ、臨床教育に関わる教員をメンバーに、従前の BSL、関連病院実習、個別計画実習について、改善の方向性や具体的なカリキュラム内容、期間、教員 FD 等の細部にわたり協議を重ねた。令和 3 年 12 月の医学科会議において、新たに臨床実習 1・2・3 として医学部内関係者の了承を得、現 5 年生（新実習策定時 4 年生）より新たな実習カリキュラムを適用することとした。  現 5 年生を中心に、各実習が終了するごとにアンケートを実施し、教育研究・IR 委員会で結果を分析し、新たに提示された問題点等に対応し、改善を図る。	
計画の進捗状況	※現時点での状況を記載ください。 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 (令和 4 年 12 月は「対応中」) <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
前回確認時 (R4. 12. 15 教育研究評議会) からの進捗状況	新カリキュラムが適用された現 5 年次生は、11/25 に臨床実習 1 と臨床実習 2 前半を修了したことから、各学生あてアンケートを実施し、現在とりまとめを行っている。	
今後の予定	11/28 から開始された臨床実習 2 については 2/3 に終了の予定であり、同様に学生アンケートを実施するとともに、教員あてには後期の授業が終了したのちに授業のふりかえりアンケートを実施することとしている。  これらのアンケート結果を踏まえ、令和 5 年度第 1 回目の教育研究・IR 委員会 (6 月ごろ) にて旧課程と対比した分析評価を行い、令和 6 年度以降のカリキュラムへ反映させることを予定している。	

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にしてください。)</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 大学教育推進委員会  <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会  <input type="checkbox"/> 情報委員会  <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会  <input type="checkbox"/> 学生委員協議会  <input type="checkbox"/> 留学生委員会  <input type="checkbox"/> 入試委員会         </p>	
<p>年月</p>	<p>令和 4 年 12 月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項 分析項目 6-8-3 卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>		
<p>内容</p>	<p>令和 3 年度に実施した「卒業時アンケート」において、複数の設問に対し、平均 80.5%を超える学生が大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が「得られた、どちらかといえば得られた」と回答していることから基準を満たしていると判断できる。ただし、「外国語の運用・表現能力」については「得られた、どちらかといえば得られた」が 66.5%（「どちらともいえない」が 22.2%）であり、他の設問と比較すると大幅に低いため、今後、検討を行う必要がある。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和 4 年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>工学部</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>「卒業時アンケート」は学生の視点における結果であり、学部や学科単位において、著しい語学力の低下は認められない。今後、現状を慎重に分析していく。一方では、コロナ禍において海外への渡航や留学生との交流など、外国語に触れる機会が著しく減ったことは間違い無い。毎年実施しているグローバルチャレンジプログラム海外実習の中止も一因と考えられる。そこで、教授会や教室会議等において、各教員に対し、研究室に所属する学生に留学、外書講読など、外国語に触れる機会を積極的に増やすことを推進するようを要請する。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。</p> <p> <input type="checkbox"/> 検討中  <input type="checkbox"/> 対応中  <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 (令和 4 年 12 月は「検討中」)  <input type="checkbox"/> その他 ( )         </p>	
<p>前回確認時 (R4.12.15 教育研究評議会)からの進捗状況</p>	<p>運営会議において、各教員に対し、研究室に所属する学生に、留学や国際学会への参加、外書講読など、外国語に触れる機会を積極的に増やすことを推進するよう要請した。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>2023 年 3 月にはグローバルチャレンジプログラム海外実習の実施を予定している。 2023 年 5 月からジョージア工科大学との共同プログラム (JSPED) の授業科目の開講を予定している。</p>	

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にしてください。)</p>	<p>■ 大学教育推進委員会 □ 施設マネジメント委員会 □ 情報委員会 □ 附属図書館運営委員会 □ 学生委員協議会 □ 留学生委員会 □ 入試委員会</p>	
<p>年月</p>	<p>令和4年12月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項 分析項目6-8-3 卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>		
<p>内容</p>	<p>令和3年度に実施した「修了時アンケート」において、複数の設問に対し、平均87.0%を超える学生が大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が「得られた、どちらかといえば得られた」と回答していることから基準を満たしていると判断できる。ただし、「外国語の運用・表現能力」については「得られた、どちらかといえば得られた」が68.1%（「どちらともいえない」が21.1%）であり、他の設問と比較すると大幅に低いため、今後、検討を行う必要がある。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和4年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>工学研究科</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>「修了時アンケート」は学生の視点における結果であり、研究科や専攻単位において、著しい語学力の低下は認められない。今後、現状を慎重に分析していく。一方では、コロナ禍において海外への渡航や留学生との交流など、外国語に触れる機会が著しく減ったことは間違い無い。 そこで、教授会や教室会議等において、各教員に対し、研究室に所属する学生に留学、国際学会への参加、外書講読など、外国語に触れる機会を積極的に増やすことを推進するようを要請する。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。 □ 検討中 □ 対応中 ■ 対応済 (令和4年12月は「検討中」) □ その他 ( )</p>	
<p>前回確認時 (R4.12.15教育研究評議会)からの進捗状況</p>	<p>運営会議において、各教員に対し、研究室に所属する学生に、留学や国際学会への参加、外書講読など、外国語に触れる機会を積極的に増やすことを推進するよう要請した。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>2023年5月からジョージア工科大学との共同プログラム(JSPED)の授業科目の開講を予定している。</p>	

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にしてください。)</p>	<p>■ 大学教育推進委員会 □ 施設マネジメント委員会 □ 情報委員会 □ 附属図書館運営委員会 □ 学生委員協議会 □ 留学生委員会 □ 入試委員会</p>	
<p>年月</p>	<p>令和4年12月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項 分析項目6-8-3 卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>		
<p>内容</p>	<p>令和3年度に実施した「修了時アンケート」において、複数の設問に対し、平均78.1%を超える学生が大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が「得られた、どちらかといえば得られた」と回答していることから基準を満たしていると判断できる。ただし、「外国語の運用・表現能力」については、「あまり身につかなかった」が44.6%と2019年度(37.7%)に比べやや多くなっている。この要因としては、コロナウィルスのため国際会議や留学等のための海外渡航ができなかったという特異事情の影響が少なからずあると考えられ、今後の状況にも注視しながら、検討を行う必要がある。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和4年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>システム情報学研究科</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>「修了時アンケート」は学生の視点における結果であり、研究科や専攻単位において、著しい語学力の低下は認められない。今後、現状を慎重に分析していく。一方では、コロナ禍において海外への渡航や留学生との交流など、外国語に触れる機会が著しく減ったことは間違いない。そこで、教授会や教室会議等において、各教員に対し、研究室に所属する学生に、留学や国際学会への参加、外書講読など、外国語に触れる機会を積極的に増やすことを推進するよう要請する。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。 □ 検討中 □ 対応中 ■ 対応済 (令和4年12月は「検討中」) □ その他 ( )</p>	
<p>前回確認時 (R4.12.15教育研究評議会)からの進捗状況</p>	<p>教授会において、各教員に対し、研究室に所属する学生に、留学や国際学会への参加、外書講読など、外国語に触れる機会を積極的に増やすことを推進するよう要請した。</p>	
<p>今後の予定</p>		

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にしてください。)</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 大学教育推進委員会  <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会  <input type="checkbox"/> 情報委員会  <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会  <input type="checkbox"/> 学生委員協議会  <input type="checkbox"/> 留学生委員会  <input type="checkbox"/> 入試委員会         </p>	
<p>年月</p>	<p>令和 4 年 12 月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項</p> <p>6-8-3「卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている」に対する「外国語の運用・表現能力」</p>		
<p>内容</p>	<p>「外国語の運用・表現能力」は「十分身についた」「ある程度身についた」の合計が R1-R3 間で 66.2%、69.4%、69.6%と着実に増加傾向があることは、英語教育に力を投じている農学研究科としては満足できる傾向にある。この値をもう一段階上（80%）に持っていくには、何らかの施策が必要であると思われる。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和 3 年度「卒業・修了時アンケート」集計結果に関する対応調査票</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>農学部</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>外国語教育に関して農学部は、UPLB 留学英語教育やネブラスカ大との留学経験や講師派遣に取り組んでおり、これらが軌道に乗れば能力・満足度ともに水準が向上すると考えている。一方 R2 年度以降、コロナ禍の影響でこれらの留学や講師招聘が滞っていることが不安材料であったが、R4 よりネブラスカ大留学は再開された。留学後のアンケート調査でも好印象であった。一方、課題もあるので次年度以降反映させていきたい。また、UPLB とのオンライン留学・英語実習を実施し、学生から高い評価を得たことは今後の方針も含めて価値があった。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。</p> <p> <input type="checkbox"/> 検討中  <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 (令和 4 年 12 月は「対応中」)  <input type="checkbox"/> 対応済  <input type="checkbox"/> その他 ( )         </p>	
<p>前回確認時 (R4.12.15 教育研究評議会)からの進捗状況</p>	<p>以下を今年度実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ English for Agricultural Science (学部 3・4 年, 2Q) 2022/8/8-8/10 ★参加人数: 14 名</li> <li>・ UNL 農学英語研修, 2022/9/18~10/1 ★参加人数: 14 名</li> </ul>	

今後の予定	<p>以下を年度内に実施予定。来年度も同様のプログラムを実施予定であり、日程は R4 と同様であると考えられるが、国際状況等を踏まえながら検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ UPLB 農学英語コース (GCP) (★参加人数：17 名参加予定)</li></ul> <p>【うち派遣期間 (海外)】 2023/2/26～3/18</p> <p>【うち派遣期間 (国内・オンライン)】 2023/1/16～2/25, 2023/3/19～3/23</p> <p>加えて、ジョージア工科大学 (GT) と連携した以下の新規科目を開講予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ Energy, Environment and Society (学部 3・4 年, 2Q)</li></ul>
-------	---



**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にして下さい。)</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 大学教育推進委員会  <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会  <input type="checkbox"/> 情報委員会  <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会  <input type="checkbox"/> 学生委員協議会  <input type="checkbox"/> 留学生委員会  <input type="checkbox"/> 入試委員会         </p>	/
<p>年月</p>	<p>令和4年12月</p>	/
<p>② 改善・向上が必要とされた事項</p> <p>6-8-3「卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られている」に対する「外国語の運用・表現能力」</p>		
<p>内容</p>	<p>全体的に高い学修・満足度を維持できている一方、R3は「十分身についた」「ある程度身についた」が47.1%と減少した。これは2年間のコロナ禍が影響しており、部局が力を入れている海外渡航・海外講師招聘が実施出来なかったことが要因であると考えられた。早期にでもこれらの講義を実施したいと考えている。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和3年度「卒業・修了時アンケート」集計結果に関する対応調査票</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>農学研究科</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>英語教育の能力や満足度は、留学体験や海外学会での発表経験が大きく影響すると予測できた。コロナ禍における行動指針の緩和に伴い、海外での学会発表は増加しつつある。また、R3年度末にUPLB留学英語教育をオンラインで実施、ネブラスカ大留学をR4に再開した。両方ともアンケート調査から好印象の評価を得ている。今後も講義・留学等はコロナ禍以前の状態に戻す予定である。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。</p> <p> <input type="checkbox"/> 検討中  <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 (令和4年12月は「対応中」)  <input type="checkbox"/> 対応済  <input type="checkbox"/> その他 ( )         </p>	
<p>前回確認時 (R4.12.15教育研究評議会)からの進捗状況</p>	<p>以下を今年度実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・UPLB 英語プレゼン技術講義：2022/5～8月</li> <li>Intermediate Techniques in English Speech Delivery(M)★参加人数：23名</li> <li>Comprehensive Techniques in English Speech Delivery(D)★参加人数：5名</li> <li>・UNL 農学英語研修，2022/9/18～10/1 ★参加人数：6名</li> </ul>	

今後の予定	<p>来年度も同様のプログラムを実施予定であり、日程は R4 と同様であると考えられるが、国際状況等を踏まえながら検討する。加えて、ジョージア工科大学(GT)と連携した以下の新規科目を開講予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Advanced Energy, Environment and Society (修士, 2Q)</li></ul>
-------	--

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況**  
**( 改善・向上が必要とされた事項 )**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会          (担当委員会を■に          してください。)</p>	<p>■ 大学教育推進委員会  <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会  <input type="checkbox"/> 情報委員会  <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会  <input type="checkbox"/> 学生委員協議会  <input type="checkbox"/> 留学生委員会  <input type="checkbox"/> 入試委員会</p>	
<p>年月</p>	<p>令和 4 年 12 月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項</p>		
<p>○分析項目 6-3-2：海洋政策科学部（令和 3 年 4 月設置）における授業実施状況の把握及び問題点の改善</p>		
<p>内容</p>	<p>海洋政策科学部は設置から 2 年目となり、今年度より新規専門科目が順次開講されている。新・旧学部のカリキュラムが同時進行して非常に複雑な状況となっており、予期せぬ問題点や今後検討が必要な点がいくつか発生しているため、現在、それらを一つ一つ丁寧に把握し、改善を行っている状況である。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和 4 年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>海洋政策科学部</p>	
<p>対応計画          (改善方策)</p>	<p>教学委員会、教務学生グループ、各領域教員の中で現状の問題点を共有し、改善できる点は即座に対応し、更に新規専門科目が増える 3 年目の状況を見越して、混乱が生じないように来年度の授業計画を慎重に検討している。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。  <input type="checkbox"/> 検討中  <input type="checkbox"/> 対応中  <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 (令和 4 年 12 月は「対応中」)  <input type="checkbox"/> その他 ( )</p>	
<p>前回確認時          (R4.12.15 教育研究          評議会) からの進捗          状況</p>	<p>第 4 クォーターも終わり、今年度の教学上の問題についての対応は完了した。来年度の授業計画については、海技教育機構の練習船による船舶実習時期がイレギュラーに変更されたことに伴うカリキュラム上の問題点が新たにいくつか見つかったため、時間割の修正等を行った。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>来年度の授業計画について、今年度中に新たな問題が見つければ、即対応する予定である。</p>	

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にしてください。)</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 大学教育推進委員会  <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会  <input type="checkbox"/> 情報委員会  <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会  <input type="checkbox"/> 学生委員協議会  <input type="checkbox"/> 留学生委員会  <input type="checkbox"/> 入試委員会         </p>	
<p>年月</p>	<p>令和4年12月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項</p>		
<p>○分析項目 6-1, 6-2, 6-3 : 令和7年4月に予定されている大学院改組に向けた現研究科の教育活動の総括と、それに基づく新研究科の方針検討。</p>		
<p>内容</p>	<p>令和7年4月の大学院改組に向けて、部局内で組織された大学院改組WGを中心にして、現研究科における従来の教育活動の総括と、それに基づく新研究科の方針の策定及びカリキュラムの検討を行っている。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和4年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>海事科学研究科</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>現研究科の総括に基づき、新しい学位授与方針及び教育課程方針を策定すると共に、同方針に相応しい水準にある体系的な教育課程の編成及び授業科目の内容等を計画していく予定である。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。</p> <p> <input type="checkbox"/> 検討中  <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 (令和4年12月は「対応中」)  <input type="checkbox"/> 対応済  <input type="checkbox"/> その他 ( )         </p>	
<p>前回確認時 (R4.12.15 教育研究評議会)からの進捗状況</p>	<p>大学院改組WGにおいて、現研究科の教育研究の総括に基づき、新しい大学院の組織(研究科、専攻、コース、教育研究分野など)、ポリシー関係(AP、DP、CP)、カリキュラム(開講科目、英語での実施科目、開講時期、担当教員、修了要件など)が検討され、原案がほぼまとまった状況にある。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>2月中旬: 大学院改組WGにおいて現在検討中の原案を研究科長に提出。            3月19日: 2022年度最後の教授会において、同案を審議。            来年度4月(2年前告知のタイミング): 2025年度大学院改組について骨子を公表。</p>	

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にしてください。)</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 大学教育推進委員会  <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会  <input type="checkbox"/> 情報委員会  <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会  <input type="checkbox"/> 学生委員協議会  <input type="checkbox"/> 留学生委員会  <input type="checkbox"/> 入試委員会         </p>	
<p>年月</p>	<p>令和 4 年 12 月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項 「研究指導計画書」に基づく学位論文の指導体制の実施状況及び効果の確認</p>		
<p>内容</p>	<p>先回認証評価で指摘され令和 4 年度から導入した研究指導計画書に基づく学位論文の指導体制が効果的に運用されているかを確認し、更なる問題点などがないか検討する。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和 4 年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>国際協力研究科・評価 FD 委員会及び教務係</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>BEEF+入力制度の構築が技術的に確認でき次第、本研究科「申し合わせ」5. に基づき教員による BEEF 入力・アップロード確認を教務係が行い、その結果を合同教務委員会で審議し、教授会に報告。更に進んで、修了時アンケートに学生にこの制度が役に立ったか聴取する項目を設けるとか、社会人院生や国際公務員志望者などにつき標準修了年限での修了できない理由(休学期間の意味づけなど)つき、評価 FD 委員会で引き続き検討を行う。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。</p> <p> <input type="checkbox"/> 検討中  <input type="checkbox"/> 対応中  <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 (令和 4 年 12 月は「対応中」)  <input type="checkbox"/> その他 ( )         </p>	
<p>前回確認時 (R4.12.15 教育研究評議会)からの進捗状況</p>	<p>認証評価分析項目 6-3-4 に対応すべく、「研究指導計画書」に基づく学位論文の指導体制の実施につき、2022 年 11 月から使用開始となる BEEF+ Venture を活用する予定であったが、稼働遅れにより主に紙ベース/メールベースによる代替方法により実施した。その結果につき、2023 年 1 月合同教務委員会および 2 月教授会で確認した。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>今後の技術的対応策、活用方法、改善策等につき、R5 年度中に検討を開始する。</p>	

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況**  
**( 改善・向上が必要とされた事項 )**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会          (担当委員会を■にしてください。)</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 大学教育推進委員会  <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会  <input type="checkbox"/> 情報委員会  <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会  <input type="checkbox"/> 学生委員協議会  <input type="checkbox"/> 留学生委員会  <input type="checkbox"/> 入試委員会         </p>	
<p>年月</p>	<p>令和 4 年 12 月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項          個別指導が中心となる単位科目についても成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることの確認</p>		
<p>内容</p>	<p>個人指導等が中心となる単位科目を中心に、成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて組織的に確認する。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和 4 年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>国際協力研究科・合同教務委員会及び教務係</p>	
<p>対応計画          (改善方策)</p>	<p>昨年度より実施している成績評価関係のシラバス記載振りの確認を、教務係作成の資料に基づき合同教務委員会が行い、教授会に報告する。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>           ※現時点での状況を記載ください。  <input type="checkbox"/> 検討中  <input type="checkbox"/> 対応中  <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 (令和 4 年 12 月は「対応中」)  <input type="checkbox"/> その他 ( )         </p>	
<p>前回確認時          (R4.12.15 教育研究評議会) からの進捗状況</p>	<p>認証評価分析項目 6-4-3、6-6-2、6-6-3 に対応すべく、成績評価関係のシラバスの記載内容の確認を合同教務委員会が行った後、教授会においてその内容を報告した。また、各授業科目の成績評価や単位認定について、適切な運用がなされているかを教授会において議論の上、確認した。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>R5 年度中に、引き続き、成績評価関係のシラバス記載内容、及び成績評価、単位認定の適正性を、教授会等を通じて組織的に確認する。</p>	

**教育課程に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にしてください。)</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 大学教育推進委員会  <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会  <input type="checkbox"/> 情報委員会  <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会  <input type="checkbox"/> 学生委員協議会  <input type="checkbox"/> 留学生委員会  <input type="checkbox"/> 入試委員会         </p>	
<p>年月</p>	<p>令和4年12月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項 継続的に修了生から意見聴取する、より効率的な仕組みを構築する。</p>		
<p>内容</p>	<p>修了後、一定年限を経過した修了生について意見聴取できる資料を用意するための仕組みを構築する。</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和4年度 教育の内部質保証に関する自己点検・評価報告書</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>国際協力研究科・評価FD委員会及び教務係</p>	
<p>対応計画 (改善方策)</p>	<p>修了生に修了後も継続的にアンケートを行うことができる「仕組み」(既に構築している留学生向け「GSICS メールニュース制度」を日本人修了生にも拡大するなど)につき今年度中に検討し、教授会に諮り、年度末ないし来年度から実施できるように準備を整える。</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。</p> <p> <input type="checkbox"/> 検討中  <input type="checkbox"/> 対応中  <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 (令和4年12月は「対応中」)  <input type="checkbox"/> その他 ( )         </p>	
<p>前回確認時 (R4.12.15教育研究評議会)からの進捗状況</p>	<p>認証評価分析項目6-8-4に対応すべく、継続的に修了生から意見聴取するより効率的な仕組みとして、2023年1月教授会で、「修了生メールニュース制度の構築について」を決定し、令和5年3月以降修了生及び以前の修了生についても、メールベースで意見聴取できる仕組みが構築できた(10月入学の留学生については既に仕組み確立済み)。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>令和5年3月修了直後にメールニュース第一号を配信しメール受信状況を確認する。R5年度中に、認証評価分析項目6-8-4で求められている「大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること」の修了生からのアンケート調査ができるよう準備を進める。</p>	

## 学生受入に係る自己点検・評価の実施について

令和4年10月18日付「教育課程、学生の受入並びに附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果及び自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の提出について(依頼)」(別紙1)を受け、次のとおり学生受入に係る自己点検・評価を実施する。

実施にあたっては、入学者選抜に係る内部質保証実施要項(令和3年2月26日入学試験委員会改定)(別紙2)に基づき行うものとする。

### 【評価事項】

- (1) 学生受入方針(以下「AP」という。)に関すること  
APの改善状況について評価を行う。

### 【評価結果(案)】

学生受入方針に関しては、令和3年度に、これまでのAPの考え方を踏襲しつつ、次の点について、大学全体、各学部、各大学院について受入方針を改定した。

- 学部ごとに表記が異なっていた同義の語句を統一
- 海洋政策科学部APの一部変更

令和3年度については、令和元年度の改定により改善を実施済みのため、大幅な改定は実施しておらず、学生受入方針に関して順調に進んでいることを確認した。

- (2) 学生の受入の実施に関すること

入学者選抜の重要な変更に関すること(主に2年前予告に関する事項)や入試ミスの発生状況に関する事項等により評価を行う。(別添資料1-1、1-2)

### 【評価結果(案)】

学生の受入の実施に関し、点検評価の結果、一部の学部・研究科において入試方法を変更する等、概ね順調に進んでいることを確認した。

なお、一部の学部・研究科において入試ミスが発生したが、適切に対応するとともに対応策を定め実施していることを確認した。

- (3) 入学者数、入学定員等に関すること

それぞれの学部・研究科における入学者数、入学定員等について評価を行う。(別添資料2)

### 【評価結果(案)】

入学者数、入学定員等に関し、点検評価の結果、概ね順調に受け入れていることを確認した。

なお、入学定員の充足率が2年連続で基準を満たしていない一部の研究科については、改善策を検討し、適切に対応を進めていることを確認した。



## 令和6年度一般選抜 個別学力検査における外国語科目の変更

## 【変更後】

学部	学科	日程	科目名
文学部	人文学科	前期日程	英語
国際人間科学部	グローバル文化学科	前期日程	英語
	発達コミュニティ学科	前期日程	英語
	環境共生学科（文科系受験）	前期日程	英語
	環境共生学科（理科系受験）	前期日程	英語
	子ども教育学科	前期日程	英語
法学部	法律学科	前期日程	英語
医学部	保健学科看護学専攻	前期日程	英語
	保健学科検査技術科学専攻	前期日程	英語
	保健学科理学療法専攻	前期日程	英語
	保健学科作業療法専攻	前期日程	英語

## 【変更前】

学部	学科	日程	科目名
文学部	人文学科	前期日程	英語、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目
国際人間科学部	グローバル文化学科	前期日程	英語、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目
	発達コミュニティ学科	前期日程	英語、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目
	環境共生学科（文科系受験）	前期日程	英語、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目
	環境共生学科（理科系受験）	前期日程	英語、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目
	子ども教育学科	前期日程	英語、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目
法学部	法律学科	前期日程	英語、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目
医学部	保健学科看護学専攻	前期日程	英語、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目
	保健学科検査技術科学専攻	前期日程	英語、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目
	保健学科理学療法専攻	前期日程	英語、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目
	保健学科作業療法専攻	前期日程	英語、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目

## 令和6年度 国際人間科学部グローバル文化学科 学校推薦型選抜

### 1) 出願に必要な書類の追加

「志望理由書（英語）」を新たに追加する。様式は別紙のとおり。

### 2) 入試方法の変更

変更後	変更前
<p><b>【第1次選抜】</b>  <u>調査書・志望理由書（日本語）・志望理由書（英語）・活動報告書・推薦書による書類審査及び「TOEFL iBTまたはIELTSスコア」により行います。</u></p> <p><b>【第2次選抜】</b>            第1次選抜合格者のみに対して、「面接・口頭試問」を行います。<u>第2次選抜は、第1次選抜の得点（450点満点）と「面接・口頭試問」の得点（150点満点）の合計点（600点満点）により決定します。</u></p> <p><b>【最終選抜】</b>  <u>第2次選抜合格者のうち、大学入学共通テストの成績の合計点が280点以上（400点満点）の者を最終合格者とします。</u></p>	<p><b>【第1次選抜】</b>            調査書・志望理由書・活動報告書・推薦書による書類審査及び「TOEFL iBTまたはIELTSスコア」により行います。</p> <p><b>【最終選抜】</b>            第1次選抜合格者のみに対して、「面接・口頭試問」を行います。最終選抜は、第1次選抜の得点（450点満点）、「面接・口頭試問」の得点（150点満点）、及び大学入学共通テストの成績（400点満点）の合計点（1000点満点）により決定します。</p>

変更理由：

- 従来日本語に加え英語の志望理由書を課すことにより、入学後の海外研修プログラム等での英語による志望理由書作成に必要な英語力を測るため。
- 本学科では、令和2年度以前の推薦入試では大学入試センター試験の最低点（400点満点中280点以上）を設定していたが、令和3年度以降は大学入学共通テストの導入に伴い一時的に外していた。しかし、大学入学共通テストは従前のセンター試験とほぼ同等であると考えられたため、以前と同様に最低点を設定することとする。

# 志望理由書（英語）

＜神戸大学国際人間科学部グローバル文化学科（学校推薦型選抜）＞

受験番号	※
氏 名	

※欄は何も記入しないでください。

■日本語で作成した志望理由書の内容に相当する内容を英語で記入すること。（自筆にて記入してください。）なお、記入用紙が不足する場合は裏面の様式を複写して付け加えて作成してください。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



## 令和6年度 「志」特別選抜 法学部 配点の変更について

- ・第1次選抜の配点を変更します。

### 【変更後】

選抜段階	内容	配点	実施場所
第1次選抜	書類審査	<u>200点</u>	神戸大学
	模擬講義・レポート（文系）	200点	
	総合問題（文系）	<u>200点</u>	
	<b>合否判定</b>	<b>600点</b>	
最終選抜	面接・口頭試問	<u>400点</u>	神戸大学 法学部
	<b>合否判定</b>	<b>1000点</b>	

### 【変更前】

選抜段階	内容	配点	実施場所
第1次選抜	書類審査	100点	神戸大学
	模擬講義・レポート（文系）	200点	
	総合問題（文系）	400点	
	<b>合否判定</b>	<b>700点</b>	
最終選抜	面接・口頭試問	400	神戸大学 法学部
	<b>合否判定</b>	<b>1100点</b>	

# 令和6年度 一般選抜 医学部保健学科

## 【変更後】

## 【医学部】

学科等名	学力検査の日程及び募集人員	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査		大学入学共通テスト・個別学力検査の配点等								
		教科等	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点合計
医学科	前期 92人	国語	国語	数学	数学(理系)	共通テスト	80	◆40	80	80	80			360
		地歴公民	世B, 日B, 地理B, 倫・政経から1	理科	物理, 化学, 生物から2	個別学力検査			150	150	150		*	450
		数学	数Ⅰ・数Aと (数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1)の2	外国語	英	計	80	40	230	230	230		*	810
		理科	物理, 化学, 生物から2	その他	面接									
		外国語	英, 独, 仏, 中, 韓から1											
			[5教科7科目]											
保健学科	前期 70人	国語	国語	数学	数学(文系)	共通テスト	100	●100 ★50	100	●50 ★100	100			450
		数学	数Ⅰ・数Aと (数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1)の2	理科	物理, 化学, 生物から1	個別学力検査			100	100	150		■	350
		地歴公民	世B, 日B, 地理B, 倫・政経から2と ※1	外国語	英	計	100	●100 ★50	200	●150 ★200	250		■	800
	理科	物理, 化学, 生物, 地学から1 又は 世B, 日B, 地理B, 倫・政経から1と ※2 物理, 化学, 生物, 地学から2												
	後期 6人	外国語	英, 独, 仏, 中, 韓から1	外国語	英	共通テスト	100	●100 ★50	100	●50 ★100	50			400
				[5教科7科目]又は[6教科7科目]	その他	面接					150		#50	200
						計	100	●100 ★50	100	●50 ★100	200		#50	600

### 【注1】【個別学力検査】欄

- ① 各教科・科目の出題方法等については、25ページを参照してください。

### 【注2】【大学入学共通テスト・個別学力検査の配点等】欄

- ① ◆印は、2科目を受験した場合は、第1解答科目の成績を用います。
- ② \*印は、医師及び医学研究者となるにふさわしい適性を見るために面接を実施します。  
なお、面接の結果によって、医師及び医学研究者になる適性に大きく欠けると判断された場合は、筆記試験の得点にかかわらず不合格とします。
- ③ 保健学科看護学専攻の大学入学共通テストの「地歴、公民」と「理科」の配点等については、以下のとおりです。
- 印は、「大学入学共通テストの利用教科・科目名」欄の※1のとおり受験した場合の配点です。
  - ★印は、「大学入学共通テストの利用教科・科目名」欄の※2のとおり受験した場合の配点です。
  - 「地歴、公民」から2科目と「理科」について「物理」「化学」「生物」「地学」から2科目の計4科目を受験した場合は、「地歴、公民」の2科目と「理科」の第1解答科目の合計点、又は「地歴、公民」の第1解答科目と「理科」の2科目の合計点のうち、高得点の成績を用います。
- ④ 大学入学共通テストの「外国語」における「英語」の成績は、リーディング(100点満点)を160点満点、リスニング(100点満点)を40点満点に換算し、合計得点200点満点を学部・学科等が定めている満点(配点)に換算します。また、リスニングを免除された者については、リーディング(100点満点)を200点満点に換算したうえで、学部・学科等が定めている満点(配点)に換算します。
- ⑤ ■印は、医療人となるにふさわしい適性を見るために面接を実施します。  
なお、面接の結果、医療人になる適性に大きく欠けると判断された場合は、筆記試験の得点にかかわらず不合格とします。
- ⑥ #印は、面接を通して、保健医療・健康科学への適性、学習意欲、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性について評価します。  
ただし、面接の結果、医療人になる適性に大きく欠けると判断された場合、総合得点にかかわらず不合格とすることがあります。

# 【医学部】

学科等名	学力検査の日程及び募集人員	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査		大学入学共通テスト・個別学力検査の配点等									
		教科等	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点合計	
保健学科	検査技術科学専攻	前期 28人	国語 国語 世B, 日B, 地理B, 倫・政経から1 数Ⅰ・数Aと (数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1)の2	数学	数学(理系)	共通テスト	100	◆50	100	100	100			450	
				理科	物理, 化学, 生物から1	個別学力検査			100	100	150			350	
				外国語	英	計	100	50	200	200	250			800	
		後期 10人	理科 物理, 化学, 生物, 地学から2 外国語 英, 独, 仏, 中, 韓から1	外国語	英	共通テスト	100	◆50	100	100	50				400
				その他	面接	個別学力検査					150		#50	200	
				計	100	50	100	100	200		#50	600			
	理学療法専攻	前期 15人	国語 国語 世B, 日B, 地理B, 倫・政経から1 数Ⅰ・数Aと (数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1)の2	数学	数学(文系)	共通テスト	100	◆50	100	100	100			450	
				理科	物理, 化学, 生物から1	個別学力検査			100	100	150			350	
				外国語	英	計	100	50	200	200	250			800	
		後期 3人	理科 物理, 化学, 生物, 地学から2 又は (物理, 化学, 生物, 地学から1)と ※1 (物基, 化基, 生基, 地基から2)の3 外国語 英, 独, 仏, 中, 韓から1	外国語	英	共通テスト	100	◆50	100	100	50				400
				その他	面接	個別学力検査					150		#50	200	
				計	100	50	100	100	200		#50	600			
		[5教科7科目]													
作業療法専攻	前期 15人	国語 国語 世B, 日B, 地理B, 倫・政経から1 数Ⅰ・数Aと (数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1)の2 理科 物理, 化学, 生物, 地学から2 又は (物理, 化学, 生物, 地学から1)と ※1 (物基, 化基, 生基, 地基から2)の3 外国語 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数学	数学(文系)	共通テスト	100	◆50	100	100	100			450		
			理科	物理, 化学, 生物から1	個別学力検査			100	100	150			350		
			外国語	英	計	100	50	200	200	250			800		
		[5教科7科目]又は[5教科8科目]													

## 【注1】[大学入学共通テストの利用教科・科目名]欄

- ※1は、以下のことを注意してください。
  - 「同一名称を含む科目」2科目を選択することはできません。
  - 「同一名称を含む科目」2科目とは、「物理」と「物理基礎」、「化学」と「化学基礎」、「生物」と「生物基礎」、「地学」と「地学基礎」を指します。

## 【注2】[個別学力検査]欄

- 各教科・科目の出題方法等については、25ページを参照してください。

## 【注3】[大学入学共通テスト・個別学力検査の配点等]欄

- ◆印は、2科目を受験した場合は、第1解答科目の成績を用います。
- 大学入学共通テストの「外国語」における「英語」の成績は、リーディング(100点満点)を160点満点、リスニング(100点満点)を40点満点に換算し、合計得点200点満点を学部・学科等が定めている満点(配点)に換算します。また、リスニングを免除された者については、リーディング(100点満点)を200点満点に換算したうえで、学部・学科等が定めている満点(配点)に換算します。
- #印は、面接を通して、保健医療・健康科学への適性、学習意欲、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性について評価します。ただし、面接の結果、医療人になる適性に大きく欠けると判断された場合、総合得点にかかわらず不合格とすることがあります。

# 【変更前】

## 【医学部】

学科等名	学力検査の日程及び募集人員	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査		大学入学共通テスト・個別学力検査の配点等									
		教科等	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点合計	
医学科	前期 92人	国語	国語	数学	数学(理系)	共通テスト	80	◆40	80	80	80				360
		地歴、公民	世B、日B、地理B、倫・政経から1	理科	物理、化学、生物から2	個別学力検査			150	150	150		*	450	
		理科 外国語	数Ⅰ・数Aと (数Ⅱ・数B、簿、情報から1)の2 物理、化学、生物から2 英、独、仏、中、韓から1	外国語 その他	英 面接	計	80	40	230	230	230		*	810	
		[5教科7科目]													
保健学科 看護学専攻	前期 70人	国語	国語	数学	数学(文系)	共通テスト	100	●100 ★50	100	●50 ★100	100				450
		数学	数Ⅰ・数Aと (数Ⅱ・数B、簿、情報から1)の2	理科	物理、化学、生物から1	個別学力検査			100	100	150			350	
		地歴、公民	世B、日B、地理B、倫・政経から2と ※1 物理、化学、生物、地学から1	外国語	英、独、仏、中から1	計	100	●100 ★50	200	●150 ★200	250			800	
	後期 6人	外国語	地歴、公民	世B、日B、地理B、倫・政経から1と ※2 物理、化学、生物、地学から2	外国語 その他	英 面接	共通テスト	100	●100 ★50	100	●50 ★100	50			400
			外国語	英、独、仏、中、韓から1			個別学力検査			150		50	200		
			計	100			●100 ★50	100	●50 ★100	200	50	600			
		[5教科7科目]又は[6教科7科目]													

### 【注1】【個別学力検査】欄

- ① 各教科・科目の出題方法等については、25ページを参照してください。

### 【注2】【大学入学共通テスト・個別学力検査の配点等】欄

- ① ◆印は、2科目を受験した場合は、第1解答科目の成績を用います。
- ② \*印は、医師及び医学研究者となるにふさわしい適性を見るために面接を実施します。  
なお、面接の結果によって、医師及び医学研究者になる適性に大きく欠けると判断された場合は、筆記試験の得点にかかわらず不合格とします。
- ③ 保健学科看護学専攻の大学入学共通テストの「地歴、公民」と「理科」の配点等については、以下のとおりです。
- 印は、「大学入学共通テストの利用教科・科目名」欄の※1のとおり受験した場合の配点です。
  - ★印は、「大学入学共通テストの利用教科・科目名」欄の※2のとおり受験した場合の配点です。
  - 「地歴、公民」から2科目と「理科」について「物理」「化学」「生物」「地学」から2科目の計4科目を受験した場合は、「地歴、公民」の2科目と「理科」の第1解答科目の合計点、又は「地歴、公民」の第1解答科目と「理科」の2科目の合計点のうち、高得点の成績を用います。
- ④ 大学入学共通テストの「外国語」における「英語」の成績は、リーディング(100点満点)を160点満点、リスニング(100点満点)を40点満点に換算し、合計得点200点満点を学部・学科等が定めている満点(配点)に換算します。また、リスニングを免除された者については、リーディング(100点満点)を200点満点に換算したうえで、学部・学科等が定めている満点(配点)に換算します。



# 【医学部】

学科等名	学力検査の日程及び募集人員	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査		大学入学共通テスト・個別学力検査の配点等									
		教科等	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点合計	
保健学科	検査技術科学専攻	前期 28人	国語 地歴、公民 数学	国語 世B、日B、地理B、倫・政経から1 数Ⅰ・数Aと (数Ⅱ・数B、簿、情報から1)の2	数学	数学(理系)	共通テスト	100	◆50	100	100	100			450
					理科	物理、化学、生物から1	個別学力検査			100	100	150			350
					外国語	英、独、仏、中から1	計	100	50	200	200	250			800
		後期 10人	理科 外国語	物理、化学、生物、地学から2 英、独、仏、中、韓から1	外国語	英 面接	共通テスト	100	◆50	100	100	50			400
					その他	面接	個別学力検査					150		50	200
					計	100	50	100	100	200		50	600		
	理学療法法学専攻	前期 15人	国語 地歴、公民 数学	国語 世B、日B、地理B、倫・政経から1 数Ⅰ・数Aと (数Ⅱ・数B、簿、情報から1)の2	数学	数学(文系)	共通テスト	100	◆50	100	100	100			450
					理科	物理、化学、生物から1	個別学力検査			100	100	150			350
					外国語	英、独、仏、中から1	計	100	50	200	200	250			800
		後期 3人	理科 外国語	物理、化学、生物、地学から2 又は (物理、化学、生物、地学から1)と ※1 (物基、化基、生基、地基から2)の3 英、独、仏、中、韓から1	外国語	英 面接	共通テスト	100	◆50	100	100	50			400
					その他	面接	個別学力検査					150		50	200
					計	100	50	100	100	200		50	600		
		[5教科7科目]													
作業療法法学専攻	前期 15人	国語 地歴、公民 数学	国語 世B、日B、地理B、倫・政経から1 数Ⅰ・数Aと (数Ⅱ・数B、簿、情報から1)の2	数学	数学(文系)	共通テスト	100	◆50	100	100	100			450	
				理科	物理、化学、生物から1	個別学力検査			100	100	150			350	
				外国語	英、独、仏、中から1	計	100	50	200	200	250			800	
		理科 外国語	物理、化学、生物、地学から2 又は (物理、化学、生物、地学から1)と ※1 (物基、化基、生基、地基から2)の3 英、独、仏、中、韓から1	外国語	英 面接	共通テスト	100	◆50	100	100	50			400	
				その他	面接	個別学力検査					150		50	200	
				計	100	50	100	100	200		50	600			
		[5教科7科目]又は[5教科8科目]													

## 【注1】[大学入学共通テストの利用教科・科目名]欄

- ① ※1は、以下のことを注意してください。
- 「同一名称を含む科目」2科目を選択することはできません。
  - 「同一名称を含む科目」2科目とは、「物理」と「物理基礎」、「化学」と「化学基礎」、「生物」と「生物基礎」、「地学」と「地学基礎」を指します。

## 【注2】[個別学力検査]欄

- ① 各教科・科目の出題方法等については、25ページを参照してください。

## 【注3】[大学入学共通テスト・個別学力検査の配点等]欄

- ① ◆印は、2科目を受験した場合は、第1解答科目の成績を用います。
- ② 大学入学共通テストの「外国語」における「英語」の成績は、リーディング(100点満点)を160点満点、リスニング(100点満点)を40点満点に換算し、合計得点200点満点を学部・学科等が定めている満点(配点)に換算します。また、リスニングを免除された者については、リーディング(100点満点)を200点満点に換算したうえで、学部・学科等が定めている満点(配点)に換算します。

## 令和6年度「志」特別選抜 医学部保健学科看護学専攻

### 【変更後】

#### ■選抜方法

「書類審査」「模擬講義・レポート(理系)」「総合問題(理系)」「課題提示・発表資料作成・プレゼンテーション」「面接」の結果に基づき、第1次選抜及び最終選抜において段階的に合格者を決定します。

#### ■最終選抜

第1次選抜合格者に対して、最終選抜を行います。最終選抜では、「課題提示・発表資料作成・プレゼンテーション」「面接」を課し、第1次選抜及び最終選抜の結果を総合して最終合格者を決定します。「課題提示・発表資料作成・プレゼンテーション」では、「保健・医療・福祉に関する課題」を提示し、プレゼンテーション後の質疑応答により、志願者の「知識・技能」「思考力」「判断力」「表現力」「主体性」「関心・意欲」「専攻への適性」などを評価します。「面接」では、提出書類を参考資料とし、質疑応答を行い、志願者の「表現力」「判断力」「主体性」「協働性」「専攻への適性」などを評価します。

試験区分	課題提示・発表資料作成・プレゼンテーション	面接	第1次選抜の結果	合計
配点	150点	150点	600点	900点

日程	試験区分	実施時間	実施場所
11月6日(土)	課題提示・発表資料作成	9:30-10:30	神戸大学医学部保健 学科学舎 (名谷キャンパス)
	プレゼンテーション	10:50-12:50	
	面接	13:40-15:40	

※実施時間及び実施場所等の詳細については、受験者心得で確認してください。

選抜方法	選抜内容
課題提示・発表資料作成・プレゼンテーション	第1次選抜合格者に対し、当日、保健・医療・福祉に関する課題を提示します。1時間で、指定された書式にて発表資料を作成します。発表資料をもとに、15分程度のプレゼンテーションを行った後、質疑応答を行い「知識・技能」「思考力」「判断力」「表現力」「主体性」「関心・意欲」「専攻への適性」などを評価します。
面接	面接は個人面接で行い、提出書類を参考に、志望理由や入学後の修学計画について質疑応答を行い、「表現力」「判断力」「主体性」「協働性」「専攻への適性」などを評価します。

## 【変更前】

### ■選抜方法

「書類審査」「模擬講義・レポート(理系)」「総合問題(理系)」「課題提示・プレゼンテーション」「面接」の結果に基づき、第1次選抜及び最終選抜において段階的に合格者を決定します。

### ■最終選抜

第1次選抜合格者に対して、最終選抜を行います。最終選抜では、「課題提示・プレゼンテーション」「面接」を課し、第1次選抜及び最終選抜の結果を総合して最終合格者を決定します。「課題提示・プレゼンテーション」では、第1次選抜合格時に提示する課題に対するプレゼンテーション及び質疑応答を行い、志願者の「思考力・表現力・判断力」を評価します。「面接」では、提出書類を参考資料とし、質疑応答を行い、志願者の「判断力・思考力」「主体性・協働性」「志望専攻への適切性」を評価します。

試験区分	課題提示・ プレゼンテーション	面接	第1次選抜の結果	合計
配点	150点	150点	600点	900点

試験区分	実施時間	実施場所
課題提示・ プレゼンテーション	9:30-12:30	神戸大学医学部保健学科学舎 (名谷キャンパス)
面接	13:30-15:30	

選抜方法	選抜内容
課題提示・ プレゼンテーション	第1次選抜合格者に対し、保健・医療・福祉に関する課題を提示します。指定された書式にて作成した資料を最終選抜当日に持参し、15分程度のプレゼンテーションを行った後、質疑応答を行い「思考力・判断力・表現力」「主体性」を評価します。
面接	面接は個人面接で行い、提出書類を参考に、志望理由や入学後の修学計画について質疑応答を行い、「判断力・表現力」「主体性・協働性」「志望専攻への適切性」を評価します。

## 令和6年度 工学部機械工学科・応用化学科 一般選抜募集人員の変更について

### 【変更後】（令和6年度入試）

学 部	学 科 等	入学 定員	募集人員						
			一般選抜		総合型	学校 推薦型	社会人	私費外	
			前期日程	後期日程					「志」選抜
工 学 部	建 築 学 科	93	75	16		2		若干名	
	市 民 工 学 科	63	49	12		2		若干名	
	電 気 電 子 工 学 科	93	65	26		2		若干名	
	機 械 工 学 科	103	<u>71</u>	<u>30</u>		2		若干名	
	応 用 化 学 科	106	<u>73</u>	<u>30</u>		3		若干名	
	情 報 知 能 工 学 科	107	90	15		2		若干名	
	計	565	<u>423</u>	<u>129</u>		13			

### 【変更前】（令和5年度入試）

学 部	学 科 等	入学 定員	募集人員						
			一般選抜		総合型	学校 推薦型	社会人	私費外	
			前期日程	後期日程					「志」選抜
工 学 部	建 築 学 科	93	75	16		2		若干名	
	市 民 工 学 科	63	49	12		2		若干名	
	電 気 電 子 工 学 科	93	65	26		2		若干名	
	機 械 工 学 科	103	88	13		2		若干名	
	応 用 化 学 科	106	85	18		3		若干名	
	情 報 知 能 工 学 科	107	90	15		2		若干名	
	計	565	452	100		13			

（注1）総合型： 総合型選抜

「志」選抜： 神戸大学「志」特別選抜

学校推薦型： 学校推薦型選抜

社会人： 社会人特別選抜

私費外： 私費外国人（留）学生特別選抜

（注2）総合型選抜、神戸大学「志」特別選抜、学校推薦型選抜、社会人特別選抜、私費外国人（留）学生特別選抜では、選抜の結果によっては、合格者が募集人員に対し増減する場合があります。

その場合は、一般選抜前期日程の募集人員で調整します。

## 令和6年度 工学部応用化学学科 一般選抜募集人員・共通テスト利用科目・配点の変更について

### 【変更後】(令和6年度入試)

学科名	学力検査の日程及び募集人員	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査		大学入学共通テスト・個別学力検査の配点等								
		教科等	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点合計
応用化学科	前期 73人	国語 地歴、公民 数学	国語 世B, 日B, 地理B, 倫・政経から1 数Ⅰ・数Aと (数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1)の2	数学 理科 外国語	数学(理系) 物理と化学 英	共通テスト	50	◆50	50	50	50			250
						個別学力検査			200	200	150			550
						計	50	50	250	250	200			800
	後期 30人	理科 外国語	物理と化学 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数学	数学(理系)	共通テスト	100	◆50	50	200	120			520
						個別学力検査			280				280	
						計	100	50	330	200	120			800
		[5教科7科目]												

### 【変更前】(令和5年度入試)

学科名	学力検査の日程及び募集人員	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査		大学入学共通テスト・個別学力検査の配点等								
		教科等	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点合計
応用化学科	前期 85人	国語 地歴、公民 数学	国語 世B, 日B, 地理B, 倫・政経から1 数Ⅰ・数Aと (数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1)の2	数学 理科 外国語	数学(理系) 物理と化学 英	共通テスト	125	◆75	50	50	75			375
						個別学力検査			150	150	125			425
						計	125	75	200	200	200			800
	後期 18人	理科 外国語	物理, 化学, 生物から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数学	数学(理系)	共通テスト	100	◆50	50	200	120			520
						個別学力検査			280				280	
						計	100	50	330	200	120			800
		[5教科7科目]												

#### 【注】[大学入学共通テスト・個別学力検査の配点等]欄

- ◆印は、2科目を受験した場合は、第1解答科目の成績を用います。
- 大学入学共通テストの「外国語」における「英語」の成績は、リーディング(100点満点)を160点満点、リスニング(100点満点)を40点満点に換算し、合計得点200満点を学部・学科等が定めている満点(配点)に換算します。また、リスニングを免除された者については、リーディング(100点満点)を200点満点に換算したうえで、学部・学科等が定めている満点(配点)に換算します。

令和6年度 人間発達環境学研究科 博士課程前期課程 第2次学生募集の変更について  
(第2次学生募集を実施する場合のみ)

- ・試験方法の変更について

【変更後】

試験方法	<p>専門科目などに関する口述試験(受験区分によってはプレゼンテーションを含む。)の成績, 提出された英語試験の成績, 出身大学の成績証明書等を総合して選抜します。</p> <p>なお, オンライン会議システム「Zoom」を利用して遠隔にて実施する可能性があります。その場合は, 受験者はカメラ, スピーカー, マイクの機能が備わった通信デバイス(パソコン, タブレット型パソコン等)が必要となります。スマートフォン等の電話機能のある通信デバイスは, 試験を中断させる恐れがあるため, 使用できません。</p> <p>また, Zoom を利用した遠隔による入試を実施する場合は, 試験期日の1~2週間程度前に試験と同じ環境で接続テストを実施する見込みです。</p> <p>試験方法の詳細は, 受験者心得にて通知します。</p>
------	---

【変更前】

試験方法	<p>専門科目などに関する口述試験(受験区分によってはプレゼンテーションを含む。)の成績, 提出された英語試験の成績, 出身大学の成績証明書等を総合して選抜します。</p>
------	--

**【変更内容の概要】**

(旧) 学力検査（筆答試験，口頭試問），成績証明書を総合して選抜。

↓

(新) 学力検査（筆答試験，口頭試問），成績証明書を総合して選抜。

ただし，試験日に来日できない受験者について，専攻が認めた場合，オンラインの口頭試問による受験を可とする。

**【適用時期】**

令和6年度入試（令和5年8月実施分）から

**【募集要項修正案】**（該当部分抜粋）

(旧)

5. Screening Method

(1) Mathematics, Physics, Chemistry

Screening will be made after comprehensively examining an academic transcript from the school the applicant graduated from and the results of written and oral examinations.

Details of the date and time and the written examination and oral examinations include specialty subjects as designated by each department. Please refer to Appendix - page ○.

↓

(新)

5. Screening Method

(1) Mathematics

Screening will be made after comprehensively examining an academic transcript from the school the applicant graduated from and the results of written and oral examinations. An examinee who is not able to visit Japan for an unavoidable reason on the examination day can take the oral examination using an internet phone service such as zoom, if it is permitted by the department.

Details of the date and time and the written and oral examinations include specialty subjects. Please refer to Appendix - page ○.

(2) Physics, Chemistry

<<変更なし>>

————— (参考和訳) —————

(旧)

5. 選抜方法

(1) 数学専攻，物理学専攻，化学専攻

学力検査（筆答試験，口頭試問），成績証明書を総合して選抜します。

学力検査の実施日，筆答試験の科目，口頭試問の内容及び場所等については，別表（○ページ）を参照してください。

↓

(新)

5. 選抜方法

(1) 数学専攻

学力検査（筆答試験，口頭試問），成績証明書を総合して選抜します。やむを得ない理由で試験日に来日できない受験者については，専攻が認めた場合のみ，zoom等のインターネット通話サービスを利用した口頭試問を受けることができます。

学力検査の実施日，筆答試験の科目，口頭試問の内容及び場所等については，別表（○ページ）を参照してください。

(2) 物理学専攻，化学専攻

<<変更なし>>

## 農学研究科ホームページ掲載（案）

令和3年 月 日  
神戸大学大学院農学研究科

### 令和6年度（令和5年度実施）神戸大学大学院農学研究科入学者選抜実施における変更について

神戸大学大学院農学研究科では、令和6年度（令和5年度実施）大学院入学者選抜の実施について、次のとおり変更します。

#### 【前期課程】（廃止）

例年12月に実施している**外国人留学生特別選抜を、令和6年度（令和5年度実施）より廃止**します。

#### 【後期課程】（入学者選抜の回数変更）

毎年度、4月・10月の入学時期毎にⅠ～Ⅲ期の計3回（8月、12月、3月）実施している以下の入学者選抜について、**令和6年度（令和5年度実施）より、12月の入学者選抜を廃止し、Ⅰ～Ⅱ期の計2回（8月、3月）の実施**とします。

- 後期課程一般選抜（入学・進学）
- グローバルドクターコース（進学）



**学生の受入に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画**  
( 改善・向上が必要とされた事項 )

\* 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成下さい。

① 担当委員会 (担当委員会を ■にしてください。)	<input type="checkbox"/> 大学教育推進委員会 <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会 <input type="checkbox"/> 情報委員会 <input type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会 <input type="checkbox"/> 学生委員協議会 <input type="checkbox"/> 留学生委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 入試委員会	
年月	・11月22日	
② 改善・向上が必要とされた事項 該当なし		
内容	学生受入方針、学生の受入の実施及び入学者数・入学定員等に関し、点検評価の結果、概ね順調に進んでいることを確認した。	
根拠	学生受入方針に関しては、令和元年度の改定により改善を実施済みであり、一部修正を行いながら順調に進んでいることを確認している。 学生の受け入れに関しては、一部の学部・研究科において入試方法を変更する等、概ね順調に進んでおり、一部入試ミスが発生したが、適切に対応するとともに対応策を定め実施していることを確認している。 <u>入学者数、入学定員等に関しては、入学定員の充足率が2年連続で基準を満たしていない一部の研究科については改善策を検討し、適切に対応を進めていることを確認している。</u>	
計画の実施主体		
対応計画 (改善方策)	対応済み	
計画の進捗状況	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 (            )	

## 附属図書館に関する自己点検・評価の実施について

令和4年10月18日付「教育課程、学生の受入並びに附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果及び自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の提出について（依頼）」を受け、次のとおり附属図書館に関する自己点検・評価を実施した。

実施にあたっては、附属図書館における内部質保証実施要項（令和2年11月5日附属図書館運営委員会承認）に基づき、令和4年度第2回附属図書館運営委員会（令和4年9月8日～26日 メール審議開催）での「令和3年度神戸大学附属図書館年次報告（案）」の確認を、第4条第1項に規定する報告とし、第3回附属図書館運営委員会（令和4年11月8日）にて第4条第2項に規定する改善事項の審議を行った。

### 【評価事項①】

- ・附属図書館において、教育研究上必要な資料が利用可能な状態に整備され、有効に活用されていること。

### 【評価結果①】

- ・学生用資料整備：

各館室の学生用資料整備は図書館予算から各館室に配分した経費と各館室のサービス対象部局から拠出された経費を合わせて実施されている。本年度の図書館予算は、各館室への配分比率を見直し前年度と同額の40,000千円とした。また、前年度に整備した学生用図書を選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。

今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、教育・学習活動の支援のため現行の予算規模の維持を目指すと共に、コンテンツへのアクセス可能性を担保・拡充するために冊子のみならず電子ブックを含めたリソース構築を目指す必要がある。

- ・研究用資料の整備：

第3期中期計画後半（令和元～3年度）の教育研究基盤資料整備費について、平成30年5月の部局長会議での承認に基づき、本年度は「教育研究基盤資料整備費」約3.63億円（決算ベース）が措置され、電子ジャーナル及びデータベースは平成28年度の契約規模を維持することができた。

第4期中期計画前半（令和4～6年度）の教育研究基盤資料整備費による整備方針について、令和2年10月8日の部局長会議において、上限4.1億円として承認を得た。

附属図書館運営経費は、本年度当初予算は約2.59億円で令和2年度より約0.04億円減（約1.6%減）となった。附属図書館図書資料費（学生用資料費・e-study資料費・震災文庫資料費・外国雑誌センター館経費）の確保が困難となっているが、本年度は令和2年度と同額の約0.72億円の予算を確保した。しかし資料本体の値上げ等により、全体の購入資料数は減少を続けている。

外国雑誌センター予算については、附属図書館予算の約1割を目標とし、0.26億円（令和2年度は0.27億円）を確保した。令和元年度にパッケージ購読を開始しタイトル契約数を増やしたことにより、EJ利用数やILL受付件数が増えた。このことから資料の利便性が向上したと推測できる。

- ・電子的情報基盤の整備：

本年度末における電子ジャーナル購読数は37,077タイトル、総ダウンロード数は教育研究

基盤資料整備事業によるもので約 140 万件と、総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。電子ジャーナル購読数は令和 2 年度の規模を維持している。

電子ジャーナルの価格上昇に加え、円安が顕著に進行している情勢であり、次期中期計画期間においては、転換契約の広がりを見込めつつも、基盤維持と経費のバランスを考慮した整備計画を立案・進行する必要があると考えられる。

・開館サービス：

前年度以降、新型コロナウイルス感染症流行下における入館制限等に対応した臨時休館や利用制限を行ったが、徐々に制限を緩和し、年間総入館者数は約 19.4 万人で前年度比 2.5 倍となった。前年度における入館者数の減少、および今年度の増加は、感染症の流行によって学習場所としての図書館の重要性が明らかになったといえる。また、非来館型のサービスの重要性が明らかになったことから、開館サービスのみではない図書館の利用指標の設定が今後の課題となった。

・資料提供サービスと利用促進：

学生への年間貸出総冊数は約 191 千冊で、前年度比約 2 倍となった。1 日あたり入館者数も約 2.1 倍であり、比例して増加したといえる。感染症流行対策としての利用制限を実施しつつも、資料提供サービスの面では図書館としての役割を一定程度維持できていたと評価できる。

来館が難しい学生を対象とした郵送貸出の実施の他、利用促進においても非来館型の取り組みを行い、電子ブックを利用した「仮想展示」やイベント「オンライン読書室」、対面とオンラインのハイブリッド形式での「トークイベント 2021『外国語授業のその先に』」を実施した。

・資料の保存：

前年度に実施した意向調査、同じく前年度に更新した「実務指針」に基づき資料の除籍を実施し書庫狭隘化の課題解決に取り組んだ。今後は改修中の自然科学系図書館の増築部分に共同利用書庫が新設され、附属図書館全体における体系的な資料整備が進むことが期待される。また、突発的な空調機の故障や豪雨に伴う雨漏りなどに備え、資料保存の適切な環境整備になお一層努めていく必要がある。

【評価事項②】

- ・附属図書館の施設・設備の整備が適切に行われていること。

【評価結果②】

- ・学修支援機能の強化を目的とした LC 設置と、資料収容力強化を目的とした増床のための自然科学系図書館の施設改修を、本年度と次年度の 2 年間で実施する。次年度も引き続きこの実施が図書館での大きな課題となる。社会科学系図書館管理棟の外壁について、タイルが剥落する危険性があるため、建物老朽化対策経費等により改修工事を実施中で、次年度に完成予定である。附属図書館長裁量経費により、老朽化した防犯カメラを総合・国際文化学図書館、人間科学図書館、医学分館、海事科学分館の 4 館で更新することができた。医学分館においては、田嶋記念大学図書館振興財団助成金により、キャレルデスク 6 台と大型本用書架 1 台を購入し、設備整備を実施した。

【評価事項③】

- ・附属図書館の活動を展開するために必要な職員が配置され、適切に活用されていること。

【評価結果③】

- ・7月時点で、附属図書館事務部は2課2グループ11係、定員46名、非常勤職員32名の78名であった。経済経営研究所図書係に定員3名、大学文書史料室に定員2名、非常勤職員2名を配置している。大学文書史料室の再雇用職員1名の増員配置は、令和3年度より恒久的な増員配置として承認された。事務組織改編により電子図書館係と情報システム係は電子情報グループの各担当となり、あらたに震災文庫担当（社会科学系図書館配置）が設置された。自然科学系グループと医学グループは各館の情報サービス係となった。本年度も感染症拡大防止のため多くの研修が対面からWebに変更となるなか、学外のWeb研修に積極的に職員が参加した。係横断的な業務や課題解決のためのワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。

附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画及び進捗状況一覧

				令和4年度			
				令和4年12月（教育研究評議会）		令和5年5月（教育研究評議会）	
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項	計画の進捗状況	①対応計画（改善方策）	計画の進捗状況	②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定（令和5年1月時点）
1	附属図書館運営委員会	附属図書館事務部	電子ジャーナルの価格上昇及び円安の影響により電子ジャーナル購読数の維持が厳しくなっているなか、基盤維持と経費のバランスを考慮した整備計画の立案・進行を目指す。 (電子的情報基盤の整備に関する事項)	対応中	①令和6(2024)年以降の教育研究基盤資料の見直し及び第4期中期計画後半(2025-2027)における教育研究基盤資料の整備について検討し、本年度附属図書館運営委員会にて協議を続けていく。	対応中	②附属図書館運営委員会での協議に向けて、附属図書館事務部で原案を作成中。また、電子ジャーナル購読料とオープンアクセス出版料の包括契約を大手1社と締結した。 ③引き続き附属図書館運営委員会にて協議し、令和6(2024)年の教育研究基盤資料の見直しは、令和5年度当初に承認を得る予定。また、第4期中期計画後半(2025-2027)における教育研究基盤資料の整備については、令和5年中に素案の作成、担当理事及び役員懇談会等と協議のうえ、部局長会議等にて確定の予定。
2	附属図書館運営委員会	附属図書館事務部	①非来館型サービスの重要性が顕著となっているなか、図書館の利用指標として非来館型サービスの項目について新たな指標の設定を行う。 (開館サービスに関する事項・資料提供サービスと利用促進に関する事項)	対応中	①従来の評価指標を見直しつつ、非来館型サービスに関する適切な評価指標を検討して追加した。今年度以降の第4期中期期間における実績評価、及び附属図書館年次報告にて反映させる。	対応中	②非来館型サービスを含めた新たな評価指標の設定を行い、数値目標を確認した。新たな指標として、蔵書検索システム検索回数、アカウントサービス提供回数、デジタル・アーカイブ利用数などを追加した。 ③令和4年度からの第4期中期計画期間における実績評価、及び附属図書館年次報告にて新たな評価指標に基づき報告を行う。
3	附属図書館運営委員会	附属図書館事務部	資料収容力強化を目的とした自然科学系図書館の増築により、共同利用書庫の新設にあわせ、附属図書館全体における体系的な資料整備を進める。 (資料の保存に関する事項)	検討中	①令和5年4月竣工予定の自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び運用方針を策定する。基準に応じて附属図書館全体での調査を行い、共同利用書庫および各館室の資料構成を見据えて適切な配架となるよう資料移動等を行い、附属図書館全体として体系的な資料整備を目指す。	対応中	②令和5年4月竣工予定の自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び運用方針を策定する。基準に応じて附属図書館全体での調査を行い、共同利用書庫および各館室の資料構成を見据えて適切な配架となるよう資料移動等を行い、附属図書館全体として体系的な資料整備を目指す。 ③共同利用書庫について、対象資料の選定及び移動計画を作成し、令和5年4月以降に移動等作業を行い、附属図書館全体としての体系的な資料整備につなげる。

**附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた  
対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<b>① 担当委員会</b> (担当委員会を■にして ください。)	<input type="checkbox"/> 大学教育推進委員会 <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会 <input type="checkbox"/> 情報委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会 <input type="checkbox"/> 学生委員協議会 <input type="checkbox"/> 留学生委員会 <input type="checkbox"/> 入試委員会	
年 月	・令和4年11月 ・令和5年1月31日	
<b>② 改善・向上が必要とされた事項</b> (記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」37-42頁をご参照ください。)		
内 容	電子ジャーナルの価格上昇及び円安の影響により電子ジャーナル購読数の維持が厳しくな ってきているなか、基盤維持と経費のバランスを考慮した整備計画の立案・進行を目指す。(電 子的情報基盤の整備に関する事項)	
根 拠	令和3年度神戸大学附属図書館年次報告	
計画の実施主体	附属図書館事務部	
対 応 計 画 (改善方策)	令和6(2024)年以降の教育研究基盤資料の見直し及び第4期中期計画後半(2025-2027)にお ける教育研究基盤資料の整備について検討し、本年度附属図書館運営委員会にて協議を続けて いく。	
計画の進捗状況	※現時点での状況を記載ください。 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 (令和4年12月は「対応中」) <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
前回確認時 (R4.12.15教育研 究評議会)からの 進捗状況	・附属図書館運営委員会での協議に向けて、附属図書館事務部で原案を作成中。また、電子ジ ャーナル購読料とオープンアクセス出版料の包括契約を大手1社と締結した。	
今後の予定	引き続き附属図書館運営委員会にて協議し、令和6(2024)年の教育研究基盤資料の見直しは、 令和5年度当初に承認を得る予定。また、第4期中期計画後半(2025-2027)における教育研究 基盤資料の整備については、令和5年中に素案の作成、担当理事及び役員懇談会等と協議のう え、部局長会議等にて確定の予定。 ※いつまでに、実行するかも含めて記載ください。	

※ 記載いただいた改善計画等については、自己評価書(別紙様式2-3-1)に盛り込む予定です。

**附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた  
対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成下さい。

<b>① 担当委員会</b> (担当委員会を■にして ください。)	<input type="checkbox"/> 大学教育推進委員会 <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会 <input type="checkbox"/> 情報委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会 <input type="checkbox"/> 学生委員協議会 <input type="checkbox"/> 留学生委員会 <input type="checkbox"/> 入試委員会	
年 月	・令和 4 年 11 月 ・令和 5 年 1 月 31 日	
<b>② 改善・向上が必要とされた事項</b> (記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」37-42 頁をご参照ください。)		
内 容	非来館型サービスの重要性が顕著となっているなか、図書館の利用指標として非来館型サービスの項目について新たな指標の設定を行う。(開館サービスに関する事項・資料提供サービスと利用促進に関する事項)	
根 拠	令和 3 年度神戸大学附属図書館年次報告	
計画の実施主体	附属図書館事務部	
対 応 計 画 (改善方策)	従来の評価指標を見直しつつ、非来館型サービスに関する適切な評価指標を検討して追加した。今年度以降の第 4 期中期計画期間における実績評価、及び附属図書館年次報告にて反映させる。	
計画の進捗状況	※現時点での状況を記載ください。 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 (令和 4 年 12 月は「対応中」) <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
前回確認時 (R4. 12. 15 教育研究評議会) からの 進捗状況	非来館型サービスを含めた新たな評価指標の設定を行い、数値目標を確認した。新たな指標として、蔵書検索システム検索回数、アカウントサービス提供回数、デジタル・アーカイブ利用数などを追加した。	
今後の予定	令和 4 年度からの第 4 期中期計画期間における実績評価、及び附属図書館年次報告にて新たな評価指標に基づき報告を行う。  ※いつまでに、実行するかも含めて記載ください。	

※ 記載いただいた改善計画等については、自己評価書(別紙様式 2-3-1)に盛り込む予定です。

**附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた  
対応措置の実施計画の進捗状況  
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<b>① 担当委員会</b> (担当委員会を■にして ください。)	<input type="checkbox"/> 大学教育推進委員会 <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会 <input type="checkbox"/> 情報委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会 <input type="checkbox"/> 学生委員協議会 <input type="checkbox"/> 留学生委員会 <input type="checkbox"/> 入試委員会	
年 月	・令和4年11月 ・令和5年1月31日	
<b>② 改善・向上が必要とされた事項</b> (記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」37-42頁をご参照ください。)		
内 容	資料収容力強化を目的とした自然科学系図書館の増築により、共同利用書庫の新設にあわせ、附属図書館全体における体系的な資料整備を進める。(資料の保存に関する事項)	
根 拠	令和3年度神戸大学附属図書館年次報告	
計画の実施主体	附属図書館事務部	
対 応 計 画 (改善方策)	令和5年4月竣工予定の自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び運用方針を策定する。基準に応じて附属図書館全体での調査を行い、共同利用書庫および各館室の資料構成を見据えて適切な配架となるよう資料移動等を行い、附属図書館全体として体系的な資料整備を目指す。	
計画の進捗状況	※現時点での状況を記載ください。 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 (令和4年12月は「対応中」) <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
前回確認時 (R4.12.15 教育研究評議会)からの 進捗状況	自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び方針を策定し、使用するスペースと収容冊数の確認を行った。	
今後の予定	共同利用書庫について、対象資料の選定及び移動計画を作成し、令和5年4月以降に移動等作業を行い、附属図書館全体としての体系的な資料整備につなげる。  ※いつまでに、実行するかも含めて記載ください。	

※ 記載いただいた改善計画等については、自己評価書(別紙様式2-3-1)に盛り込む予定です。